



サンビオティック農業で大豊作！

きゅうり・ゴーヤー栽培基準



時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
育苗期		育苗培土(市販) 鈴成	必要量 培土に対して5%	混和	播種または鉢上げする場合の培土には、病気に強く、花芽分化しやすい苗を作るため、鈴成を培土に5%混和します。有機質の少ない培土の場合は、五穀堆肥を10%混和します。上記混和後2週間程度おくと、良くなじみます。
		菌力アップ コーソゴールド	200倍希釈 500倍希釈	7日おきに灌水 (4回以上)	左の希釈倍率は、ポット育苗の場合です。セルトレー育苗の場合は、根鉢が巻きすぎ、老化または肥料欠乏になりやすいため、菌力アップは500倍希釈と薄めに行います。
		コーソゴールド	500倍希釈	葉面散布 (7~10日おき)	花芽分化促進となります。防除の際、農薬とコーソゴールドを混用して散布すると良いです。
本圃準備 (元肥)		五穀堆肥 有機百倍 鈴成	(夏秋) 50袋 7~10袋 10袋 (冬春) 50袋 10~15袋 15袋	土壌混和	あらかじめ土壌分析に応じて、pH、石灰、苦土などを施用しておきます。 その後、2~3トン程度バーク堆肥などの堆肥を施用します。(五穀堆肥の場合は50袋) 前作で土壌病害が発生した圃場である場合は、「かにキング~」20袋/10aを追加して混和します。 薬剤にて土壌消毒する場合は、消毒後に必ず菌力アップ10リットルを灌水します。 元肥の有機百倍は、マッスルモンスターに置き替えてもよいです。
定植期~ 初期生育		菌力アップ コーソゴールド 純正木酢液	5リットル 2kg 2リットル	5~7日おきに 灌水(4回以上)	定植直後は活着促進のため、株元灌水で菌力アップ200倍希釈(300~500cc/株)を1日おきに施用すると良い。活着後は、初期生育のため左の通り。希釈水量は1トン程度、十分にしみわたる量を施用する。 農薬散布時には、コーソゴールド500倍、純正木酢液1000倍を混合散布すると、病害予防、花芽促進等に良いです。
収穫開始 ~		(収量アップ) 菌力アップ 糖力アップ コーソゴールド	5リットル 5~10kg 2~3kg	7日おきに 灌水(継続) (1~2トンの水 で希釈)	収穫期間を通じて発根作用を停滞させないことが重要。そのため、菌力アップは年内、および春先は必ず施用する。(春先のセンチュウ被害対策にもなります。) 糖力アップは収量アップ、なり疲れ防止で収穫開始から灌水はじめ、着果負担を見ながら継続する。なり疲れがひどい場合や、曇天・低温が続く場合は、3~5日おきにするなど、糖力アップを増やして対応する。 コーソゴールドは、食味・品質向上、病害予防。灌水の間隔や量は、生育を見てその都度調整する。
		(花芽・品質向上) コーソゴールド 本気Ca(マジカル)	500倍希釈 1000倍希釈 (水量150リットル)	7日おきに 葉面散布	リン酸と植物酵素、カルシウムを吸収し、玉肥大、食味の向上、軟果防止、尻腐れ予防に効果的です。 味に深みを出すため、本格にがり1000倍の混合もよいです。
病害時 (随時)	フザリウム、ツル枯れ、ツル割れ、ホモブシス、センチュウなど	菌力アップ 純正木酢液	10リットル 500倍希釈	灌水(水1トン) 3日おき4回以上	土壌病害は、必ず初期症状で発見し対応する。 適用薬剤があれば、殺菌剤等を使用したのち、菌力アップ・純正木酢液で病害の蔓延・拡大のリスクに対応する。 ネコブセンチュウの場合は、糖力アップ5リットルを混用する。 3日おき4回灌水が終了したら、使用量を半分にして、7日おきに灌水を継続する。
	病害、虫害 の対応 (うどん粉 等)	コーソゴールド 純正木酢液	500倍希釈 500倍希釈 (水量150リットル)	3~4日おきに 葉面散布(5回)	殺菌剤を併用し、葉面散布します。本格にがり1000倍を併用するとなおよい。にがり、木酢は細胞壁や繊維質を強化し、コーソゴールドは光合成を向上させ、耐病性を高めます。

※糖力アップは、点滴灌水、ドリップ灌水では詰まりますので使用をお控えください。

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。